

平成 29 年度第 2 回相生市総合教育会議会議録

日 時	平成 30 年 1 月 30 日（火）13 時 30 分から 15 時 00 分		
会 場	市役所（旧市民会館） 3 階 議員控室		
出 席 者	谷口 芳紀	市長	
	萩原 喜樹	教育委員長	
	小西 毅	教育委員長職務代行	
	栗原 英子	教育委員	
	西田 香子	教育委員	
	浅井 昌平	教育長	
説 明 員	越智 俊之	企画総務部長	
	玉田 直人	教育次長（管理担当）	
	石堂 賀人	教育次長（指導担当）	
	宮崎 義正	管理課長	
	坂本 浩宣	学校教育課長	
	番匠 真由美	生涯学習課長	
	桑名 雅彦	生涯学習課主幹	
	小西 まこと	体育振興課長	
	横山 和彦	人権教育推進室長	
	森田 敏雄	管理課副主幹（書記）	
傍 聴 者	なし		

1 開会

2 市長挨拶

各委員には平素より相生市の教育行政にご尽力いただき感謝している。

相生市では、地域創生の取り組みとして子育て・教育施策を中心とした、相生市独自の子育て環境を整備する取り組みを実施している。その結果、この数年は、人口の推移で転入が転出を上回る社会増が続いており、成果が出ているところである。

一方、市の財政状況は厳しさを増してきているが、将来の相生市を担う子供たちの教育支援については、今後も継続していきたいと考えているので、委員の皆様にはこれまでの豊かな経験に基づく幅広い視点で相生市の教育行政に引き続きご尽力をいただけるようお願いする。

この総合教育会議は、今後の相生の教育についての大きな方向性を決定する会議であり、非常に重要な場である。各委員の忌憚りの無い意見交換や今後に向けての調整をさせていただきたいと考えているので、よろしくお願い申し上げます。

3 協議事項

(1) 相生市の教育に関する重点施策について

ア 平成30年度の重点施策について

管理課長

平成30年度の重点施策については、相生市教育振興基本計画を基本に、平成30年度から推進していく重点施策を各課から8事業の提出をさせていただいた。

(管理課より機構順に事業概要説明)

管理課 「小・中学校学習環境充実事業」

学校教育課 「プロから学ぶ創造力育成事業」、「運動部活動活性化推進事業」、
「学校園読書活動充実事業」

生涯学習課 「文化会館利活用促進事業」

体育振興課 「ジュニアスポーツ活動の推進」

人権教育推進室 「ケータイ・スマホ教室」、「日本語習得支援員制度」

谷口市長

外国人は何人いるのか。

人権教育推進室長

平成30年4月1日で対象が4名である。

谷口市長

それは小学生か。

人権教育推進室長

はい。翌年度に、小学校の新2年生にベトナム国籍の方が1名と中国国籍の方が1名、新6年生に中国国籍の方が1名、そして、新1年生にスリランカ国籍の方が1名の計4名となっている。

萩原委員長

施策の「運動部活動活性化推進事業」について、中学校の先生方の勤務が多忙を極めているということで、現在、国の方で働き方改革が議論されている。この外部指導

者について、4名を配置するということについての勤務形態だが、週に何回とか、何時間とかいうことが分かっていたら教えていただきたい。

学校教育課長

その点については、決まった勤務形態や勤務時間というよりも、年間を通じてクラブに関わっていただき、日頃の練習や、対外試合にも引率をいただいたりすることを予定している。何時間働いていただかないといけないといった拘束は考えていない。

谷口市長

「学校園読書活動充実事業」を見ると、読書をする子が全国レベルと比較すると低いようである。

萩原委員長

図書館従事員の配置については、現場は非常に助かっていると思う。引き続き、そういった配置をお願いしたいが、図書館従事員が環境整備をしていただく時に消耗品が必要であるが、そういったものの予算立てなどは、この中から出るのか。

学校教育課長

ここに挙げている事業費については、主に図書の購入費を予定しており、図書室の環境を整える消耗品などについては、学校予算の中で協議をいただきながら、購入をしていただきたいと考えている。

ただ、この中に書いている、中学校の図書コーナーの整備については、現在、中学校の教室の中に図書を整理して置くようなものがないため、ラックのようなものを購入して、整理しやすいようにすることを考えており、それについては、予算を確保していきたいと思っている。

浅井教育長

先ほど市長のお話にあった、相生の子どもたちが読書にかける時間が少ないという理由や原因というものの分析は、学習状況調査では出ていないのか。

学校教育課長

具体的に、何が原因かということ突き止められているかというと、これまでの調査結果を分析していく中で、先ほどもケータイ・スマホ教室の話が出ていたが、県立大竹内和雄先生に子どもたちの実態を見ていただいたことがあり、子どもたちの生活実態の全国調査結果を見ていただいたときに、テレビやインターネットに触れている割合が、他の市町と比べても少し高いのではないかという、ご指摘を受けたことがある。それは後々、インターネットだけではなく、ケータイ・スマホにはまっていった、悪影響が高まっていくのではないかと合わせてご指摘をいただいた。

読書に向かない理由としては、ひとつはテレビとか、インターネットに関わっていることがあると考えられる。中学校になれば、部活動に時間を割いているということもひとつの要因であるように思っている。中学校の部活動でのノー部活動デーなどを進めていく中で、そこで生まれた時間で子どもたちに読書に向かせたいと考えている。

西田委員

文化会館が開館した最初の方に、チケットを買うためにかなり並んで大変だったという意識をお持ちの方が多くおられて、そういった方は行っても買えないですねと言われる。

生涯学習課主幹

昨年のPRは広報紙への挟み込みが主であったが、今年はそれに平行して、新聞、ミニコミ誌などにも積極的に広報を入れるようにしており、市外の方も含めて、少しでも目につくような方法を検討している。また、チケットぴあでも取り扱いを始め、1割ほどはそちらの取り扱いとなっている。

谷口市長

チケットは高くないのか。

教育次長（管）

基本的には補助金をいただいているので、50%は市の補助金を使わせていただいて、50%はご負担をいただくという考え方の設定であるため、適正な価格だと事務局では考えている。

来年度は、米村でんじろうのサイエンスショーや、初年度に実施した劇団四季、そして森山良子を予定しており、充実していると考えているので、後はPRを行っていく。

教育次長（管）

それでは、「3 協議事項（1）ア」について、ご了解いただいたということによろしいか。

市長及び教育委員

了解

教育次長（管）

只今いただいたご意見等を尊重し、平成30年度の事業を進めていく。

4 報告事項

- (1) 小中学校学習指導要領の一部改正にもとづく道徳の教科化に向けて
- (2) 新学習指導要領にもとづく小学校外国語教育本格実施に向けて

(担当課より事業概要説明)

人権教育推進室 「小中学校学習指導要領の一部改正にもとづく道徳の教科化に向けて」

学校教育課 「新学習指導要領にもとづく小学校外国語教育本格実施に向けて」

栗原委員

道徳の教科化も英語の教科化も、保護者向けにはこうなるというお知らせをされるのか。

人権教育推進室長

道徳の教科化については、小学校については来年度から実施となっている。そのため、4月に教育委員会から保護者向けに文書を出したいと考えている。

学校教育課長

外国語教育についても、来年の4月当初には、指導の内容について、保護者の方にご理解いただけるような文書を出していきたいと考えている。

西田委員

英語の教科などが増えると、何かが減るのか。

学校教育課長

他の教科が減るということは無く、教科が増えるということになる。

教育次長（管）

報告事項「(1) 小中学校学習指導要領の一部改正にもとづく道徳の教科化にむけて」、「(2) 新学習指導要領にもとづく小学校外国語教育本格実施に向けて」については、ご了解いただいたということでよろしいか。

市長及び教育委員

了解

5 意見交換

教育次長（管）

総合教育会議は市長と教育委員会が、教育に関する諸条件整備や重要施策について協議や意見調整を行っていただく会議となっている。

今後の教育について、まず、教育委員長の相生市の教育に関する所感をお聞かせいただき、次に市長の教育に関する所感をお聞かせいただき、その後、市長と各委員による自由意見交換を行っていただきたいと考えている。

萩原委員長

相生市の教育に関する現状について、私の思いを述べさせていただく。

前回の第1回相生市総合教育会議の中で、「教育環境のハード面の充実」について引き続きお願いしたところだが、今回の会議でも引き続き、重点施策が計画的に実施されること、一層の効果を期待したいと思う。中でもJIS規格の机・椅子や洋式トイレの設置など、子どもたちに直結する教育環境の整備については、早急に整備をする必要があると思う。

また、3年目になる文化会館を一層利用してもらえるよう事業の充実を図り、今年度改修する市民体育館についても同様に使用頻度をあげる必要があると考える。

次に、「新学習指導要領の実施」に向けての取り組みだが、相生市では外国語活動について先進的に取り組んでいるわけであるが、グローバル化に向けて引き続き実施していくことが大切であると考え。平成30年度、この4月からは小学校で、平成31年度からは中学校で、道徳の教科化が実施されるわけだが、心の教育、命の大切さやいじめがないなど、「やさしさとおもいやりのある人づくり」のさらなる実現に向けて、取り組む必要があると思う。

また、平成25年度からの事業である「学び塾」だが、子どもや保護者の希望に応え一定の成果が出ている。今後はマンネリ化しないように、内容を深めて取り組んでいかなければならないと考える。

次に、今後の教育のあり方として、次の2点について申し上げる。

1点目は、命の教育の推進についてである。

21世紀をたくましく生き抜くために、どんな力が必要かと最近つくづく思う。

昨年に神奈川で起こった、自殺願望の9人が殺害された事件。大変ショックを受けた。本当は死にたくなかったと言う報道もあったが、簡単に事件に巻き込まれると言うことは、将来について夢や希望がなかったのかと思う。

相生市では、学校教育の中では自尊感情の高揚を図る道徳教育や日々の生活指導を行ったり、人権教育推進室ではケータイ・スマホ教室を実施し、命の大切さについて考えさせたりしている。また、生涯学習でも講演会等で命の大切さについて常に啓蒙しているが、これからもより一層、命の教育の充実を推進していきたいと考える。

2点目は、働き方改革についてである。

今、国レベルで働き方についての問題提起がなされている。教育活動からは少し離

れるが、教育に携わる者の士気高揚という点から「働き方」について一考を要する時期なのかと思う。行政も含めて教育現場の多忙化解消に向け、勤務時間の適正化や年間行事の精選などについて考えてみる必要があるのではないかと思う。

今までもこの問題については多く議論されてきたところだが、なかなかいい解決策が見つからない。皆さんのご意見も伺いながら今後の参考としたいと思うのでよろしく願います。

以上で、現在またこれからの相生市の教育に対する所感とする。

谷口市長

私は、常々申しているが、「まちづくり」の基本は「人づくり」にあると考え、これまで教育施策に重点を置いた市政運営を進めてきた。

そういったなかで、相生市の今後の教育について、私の考えを2点申し上げる。

1点目は、子どもたちが夢や希望を抱き、こころ豊かにたくましく育つため、新教育課程に対応した体制を迅速、的確に整えていただきたいと考える。

情報通信体制の発展により、日ごろの生活が世界と身近になり、情報の入手が容易で情報があふれる状況となっている。このような状況であるからこそ、人とのつながりやふれあいを大切に、自分の考えや判断で行動できる人間形成がこれまで以上に重要になってくると考える。そのためには、新教育課程に対応した道徳教育や英語教育への対応を教育委員会と学校を中心として、家庭や地域の理解を深めながら進めていただきたいと考える。

また、先進的に取り組んでいただいているケータイ・スマホ教室の取り組みについても継続的に実施していただくようお願いする。

2点目は、なぎさホール、市民体育館などの施設を市民の皆様がより利用しやすい工夫をお願いしたいということです。

なぎさホールに関しては、相生市が賑わいづくりのため駅前に建設中の「総合情報発信施設」と「ペーロン海館」を相互に連携させながら人の流れを作り、また交流を進めたいと考えている。特に「なぎさホール」は中核的な施設であるので、文化芸術の発表や鑑賞の場としての活用のみならず、今後のまちづくりを見据えた事業展開をお願いする。

市民体育館については、スポーツを楽しむ健康づくりを行うなど、子どもから大人まで気軽に利用できる施設となるよう、施設や設備の改修により施設を使いやすくすることは勿論、事業内容の工夫などを行っていただき、市民がより一層、参加しやすい事業を知恵を絞って実施していただけるようお願いする。

冒頭にも申し上げたが、「まちづくり」の基本は「人づくり」にあると考えており、そのためには教育施策の充実は極めて重要だと考えている。

これまで、各教育委員のご尽力により、相生市では先進的な教育の取組を行っていただいていることを、ありがたく思っており、今後も引き続きご協力をお願いしたいと考えている。

これまでの各委員の教育行政に対する取り組みに、衷心よりお礼申し上げます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

谷口市長

学び塾についてだが、5年が経過して、これまでの取り組みの成果とか、今後の対応について、しっかりお願いをしたいと思う。

教育次長（管）

学び塾について、平成25年度より開始しているが、平成28年度までは順調に利用率も、利用する子どもたちも増えてきている。

ただ、平成29年度は、若干減ってきている。それについては、今後の2月、3月にどうことが減った原因なのかを、生涯学習課を中心に検討させていただく。そして、平成30年度には何か工夫をし、より多くの子どもたちに参加していただけるよう、検討していく。

栗原委員

学び塾の件で、先ほども委員長が一定の成果が出ているとあったが、どこかに数字やアンケート結果などは表示されているのか。

生涯学習課長

特に数字的なものは出ていないが、毎年、保護者の方にアンケートを取らせていただいており、自学自習の目的を持って実施しており、自主的に学習に取り組めているか、算数とかそろばんでは、数学が得意になったとか、そういったご意見はいただいている。

放課後に遊びたいお子さんもおられるが、学び塾に来られて、宿題や、プリントなどを自主的にされているので、効果があったと考えている。

浅井教育長

学び塾の成果は、例えば点数が良くなるとか、成績が良くなるとかではなく、子どもたちがそこに来るといったことが一つの成果であって、またそれを先生ではなく、地域の方が面倒を見てくれているといった体制が出来上がっているということが成果であると思っている。

先ほど、教育次長から平成29年度になって、参加の子どもたちが少し減ったということは、やはり成果の部分で問題があるということで、更に子どもたちの参加率が上がるように進めていこうという、そういう考え方で行っているので、数値がどうなるという成果指標は元々ないため、そのように考えていただければありがたいと思っている。

小西委員

道徳が教科化されるとのことだが、市長のお言葉の中にも人づくりはそういうところからということだと思うが、遠くから来られた人が、「なんてきれいなまちなんですか。」と言われる。やはりきれいであることがモラルとか意識を高めることだと思う。私はよく、大人の教育ができないのかと思う。子どもの教育は、道徳的な教育が多くあるが、どうすれば大人の教育ができるのかと、考えている。

西田委員

本も大人が読んでいたら、子どもはまねをする。子どもに読書をさせたいが、昔と家の雰囲気が違うと思う。

栗原委員

昔は家に本があって、子どもも興味本位でのぞき込んでいたが、今は家庭に本が無い。先の図書の話に戻るが、貸りたいのに時間が限られて、貸りられない。中学生はほとんど貸りられていないと思う。私たちの時代は、本を買いたくても買えないので、ほとんど図書室で本を貸りてくるのが当たり前だったことが、今は子どもたちは、授業以外の知識をどこで得ているのかと思うと、ラインなどで同じ年代の同じ仲間でしか意見交換をできない、コミュニケーションの世界が広がっているようで、意外と狭い中でしか知識を得ていないような気がする。学校図書を、もう少し中学校でも貸りて家に持って帰られたらと思う。

教育次長（指）

確かに中学校生活では、図書室に行く時間がないのが現実である。先ほど学校教育課長の説明の中にもあったが、より多く、子どもたちに本を読んでもらう機会を増やすために、出張図書館として、図書室にある本を学級文庫として持ち出して、そこで読む機会を与えているという面はある。学期ごとでその本を入れ替えることで、数を読めるような工夫を行っている。

栗原委員

その学級にある本を、休み時間に読んだりするのか。

教育次長（指）

はい。また、自分が用意した本を持ち込んで、空いている休み時間に読むことも自由にできる。朝のホームルームの時間に、朝読書の時間として10分間ほど設けて、少しずつだが、毎日、こつこつ本を読むような機会を設けている。そのようなことをもっと啓発していきながら、増やしていきたいと考えている。

栗原委員

それは3中学校全てでされているのか。

教育次長（指）

はい、学年によっては、この時期には入試の前に入試対策を行っているところもあるが、おおよそ行っている。

萩原委員長

学校現場は、結構読書に力を入れている。朝の読書や、小学校は読み聞かせのボランティアの方に来ていただいたりしている。

矢野川中学校区は家庭に呼び掛けて行っているものもある。あれはどのようなものであったか。

学校教育課長

矢野川中学校区が先進的に行っているのは、「ノーメディアデー」というものである。先ほどのテレビを見る時間が多いという傾向がある中で、ご家庭にもご協力をいただいて、月に2回は家族もテレビを見ないでおこうという日を決めて、取り組みを進めている。これは矢野川中学校区初の取り組みであるが、市内にどんどん広がっている傾向である。

萩原委員長

そういうことは、家庭、地域で広げていかないと、なかなか読書の定着は難しい。

栗原委員

学校で読書をして、興味を持って、家でも本を読んでもみようかとなればいいと思う。

管理課長

幼稚園から繋がりを持ってということで、一部の幼稚園ではスタートしているが、読書リレーというもので、幼稚園の子どもたちが本を家に持ち帰って、その度にスタンプを押してもらい、たくさんスタンプを付けることにより、読書の習慣を付けるということ、幼児期から行っているところもある。それにより、読書の習慣を、小学校に繋げていければと幼稚園でも取り組んでいるという事例もある。

浅井教育長

あと、矢野小学校では図書室を保護者にも開放をしている。図書の貸し出しを保護者にも行っている。「ノーメディアデー」の一環にもなるが、実際に利用もあると聞いている。

小西委員

言い回しが下手であるとか、幼稚な言葉を使うことが多い。それは本を読んでいないからかと思う。

栗原委員

作文を読むとよくわかる。英語もしゃべれるようになりましょうということもあるが、話をしたい中身をまとめられないと、英語も何も言えない。

小西委員

算数の問題でも、国語力がないため、問題がよく分からず、そこに時間がかかって解けないということもある。

教育次長（管）

今後の相生市教育に関し、貴重なご意見をいただいた。

今回のご意見を踏まえ、事務局として関係部課とも協議を行い検討させていただき、更なる取り組みを進めさせていただきたいと考えている。予算措置が必要な事項については、今後の予算に反映できるよう努めてまいりたいと考えている。

萩原委員長 閉会の挨拶

平成２９年度第２回相生市総合教育会議を終了